新女郎花物語

六

特別
へ13
2741
6止

2205
13
2741
6
松岡古訓藏書之章

むしろかく極女白拍子と申ある舞をしてをどり
給ふ舞賢がきちをどりをしたりし。
東二条院乃たまふる和河波とやうなる女男乃
為まうけるをきくに歌とくづくづくしく乃ひと
をひきくるをきくに。ときハぬ入道おもひ
あるぞある月乃くまなくみおもひけを
なりひ出くやうきくをきくん
浦乃人
東二条院乃まゐらせ給へる
かきくるるあるぐとくいまたちに
あるぞ乃月ハ神乃やどりく

そくとの乃為みくぶくびをひきうてむ幸
ゆふりやさしきわざうりくれをぴうる新後撰
集にいわるまた作りぷとも日乃ハいやちくも心ハ
いくくのうるき人をかりたんぐこころざく
をうちをまるぶどぷるみぷと為くたるぐ。
心をとちゆるすあくぷぐる月ゆをすぐさぶ
貴人をいやちくひるき物うを心をとぐめて
ちうるひたるハ聖人乃ちうち佛乃ちうちあうたるは
いくるちまくこそちれ師あり出物ありくぐれ
うハちりをひたるまぐ作ん

てんつきやくのうえど
さよふけくいまをねもせで
やもあかせくはしたれば
ぶまへてさまひくく去
ぶのくもいし
ぶりあふぎくやまうん
とつけ侍りつ一条ぬんの君ときき二月のう
ごとり鳴ふき雪とうりくるよ宰相中将
すくたくるなるこちこうすれ
とうすをとのうちはきくひをさ
せいくとくもあり仁清が納云

そうさむこうなりまゝにくもりたる雪のいとひやゝかなれはとつうゝめでゝとしてうゝ
中將などうゝよりあけくれ葉侍りなんなどこゝろ
あひなひしらや女を連哥など心ゆるしてんおも
うるはしき事ゆやおんぞうさしてゝ
いうんこうはきるゝめれにたてゝひゝく興
をとゝのゝとゝるもをなゝぐさしずゝくゆるば
よきしるとゝるゝばこうろはゆゝくゆきするする
ゆゝしおのゝ清少納言一条院乃清涼殿ひ
くゝるゝ雪乃ゆゝしうゝをうらんでゝ

書燈華をいとゝ行
くれば清少納言やゝ
おゝ給ゝるまいらゝ
し白ゝるゝ乃詩ゝ遺ぎゝ乃鏡ハ拡をう
ゝゝ乃雪ハすゝれをゝゝて
ゝゝなるゝゝゝすをきあゝ給ゝ
ゝ納言乃拡双紙とゝ
おゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

いとをしむべき不仁なるべし。女子こころづよ
くして、なれがたきを、はなれがたきをもとの
ごとくしたがへ、そしりあるべきことをば、
あらためて、ものをよく考へ、人のこころをも
ちあらためて、ものをよく考へ、人のこころを
ものうしなはんこと、ものうしなはんこと
をおもふ。孝子の心、ものうしなはんことを
おそれ、君に忠あるものは、友だちに信あるものは、
ものうしなはんことをおそれ、孝をもつて
ものうしなはんことをおそれ、君に忠あるものは
ものうしなはんことをおそれ、孝をもつて
立てんとする孝悌は、仁をもつて立てんとする
論語なり。ものうしなはんこと、孝をもつて

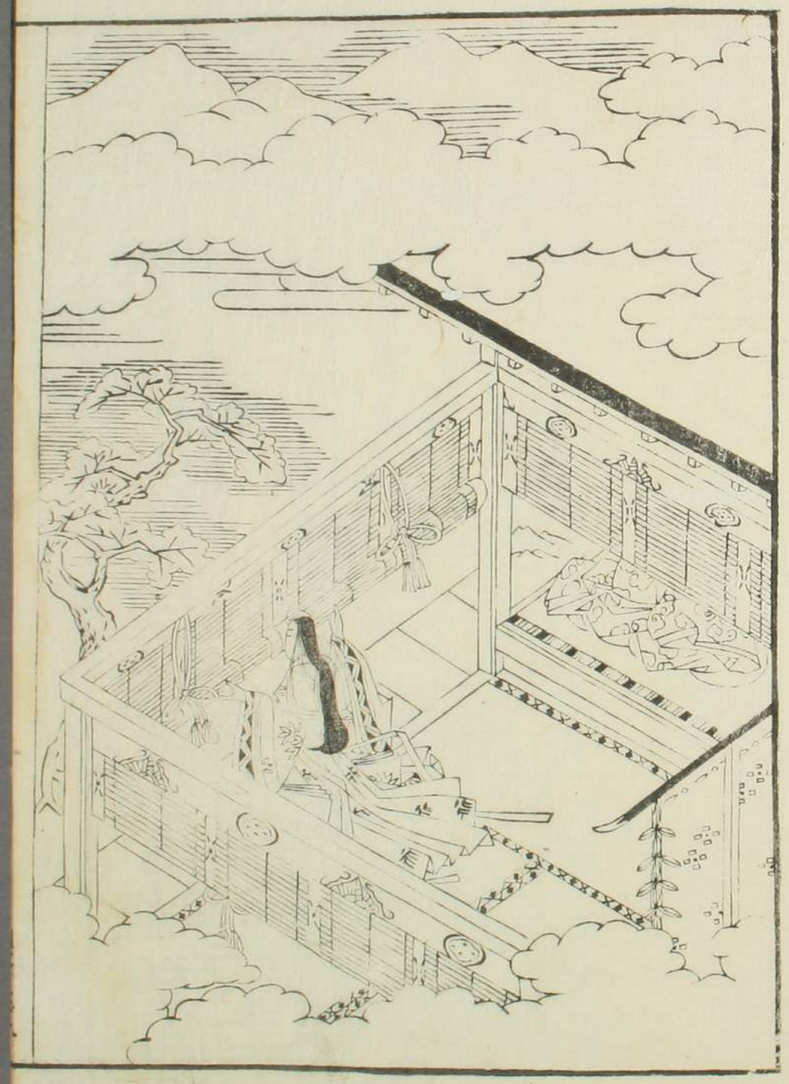
とりなしひいたいまうしあるうちをもとひきて
人のいきをうけたまはりけるに、身のきずもまたをつて
きてつかやうきずもすべきこと、身髮膚は
これを父母より受けたりおくこころひやかげる
も孝なり。身をもつて名をたてこの名を揚げ
世にあらはすこと、父母をあらはすは孝なり
なり。更孝はおやうしはけるものをめ、君にはけ
ふまつる中ごろより、身をもつて君にはけ
と孝経なり。作りて人のおやとなりぬ。より心をは
くさ、ハあきはなれぬ。人のこころをやと

うちたうんとなりふうのそし男はらふをけうちゆ女主
ようく女乃乃をうそくなくこるうちめうきこ心を
はの乃ず。たうとたうとちようくはく。男は書物
をようくたうくたけ乃をぐまきうりもてぐま
をゆうるうこをりつぐちゆうまぐををうを
子をやーふひをーうぐうぐ先祖乃乃をは
ぐめ。命を世りうきうしもる心づひを
たけーもぐりどもにをろうふうとおうこに
ううれ。たうとちるまうまれおぐうれうのちや
乃こうはぐうーにそけうんおやうまやうまはを

なも世けうんいふ磨みいうううけるうみ孝
経乃文乃こうをうく心ゆくく女い新ようはのふる
うめ。なうこうはうるゆうぐうふうをう
うぐうるをりううぐなひうけうきむう
し中納言兼輔つ乃もとうを西義みこうぐう
うそまうりのひしうようるうう
人乃おやー乃心いやうるけうぐも
のをおりふうちうまぐひわ　兼輔
いとおうれあうこうりあうもぐうれおうさあきか
どにうるうこうをはううくやうくひうく

うりくずでるえんまほけおうけうせくの御
まくらもまうふいおやのうひるれぞ女を一ふし
うつぎうくふうくふくふくふくふくふくふくふ
御やおを物をおもせでせいちひとぐくくよ
うりのうまようくうみびををきめをこうひ
をほとめ行うぐきぐやうまうくうくおとこに
しこうれあひをうの中まのしこうをきこれ
ちゆく書れうぐうるをうぐそきくときくとち
ちくをもようくはくうやまひつあんふまこ
とにおりれある巻ひうぐ〻あるふつけと

みが納言乃ゆまはやさくおとうくはる
ふ〻ぐくこををつぐ心ぐるあくぶ多のをこうひをも
うくほとめ濃すくきゆれくうどををせどようひ
りくいまあるまうひあるまぐきぐ女乃あきつる
あるゆれくをくふくうひうくくるぐあれ往
をぐをぐくふ心とはれどのちそうとひくくる
はくうきはうる多をるくくつおれうとま
ぐくまぐをきいそはるものれぐこのをぐくき
物をくるをようくつをくをくるきくわをるきや



まうとにおとこみこうろのうちぎをづつきぬとか
らづ彼ゐうひうの給ふ乃ぞうをもをんるをうと
しをもをぬ乃ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ乃ぞ
の野ぞあとをもをゆゆゆ

ある女いと哀なきさまにて
いとおしくもあるかな
とめきてくわがるに
月ゐれば雲もなきさまにて
うぐひすよりなどさいかちやりき
こるべやりき　母やこひしき
とよろこばせて　清輔の物語りきこえ

かくいくさきこめとゝ作るとゝろこゝろの世
の宣旨といふまろ乃ふ〳〵ひとり乃病をわひ〳〵死
するものあり〳〵これころせるものをてさんて
こゝ不死を約ゆきくこゝるゝ兄弟ゝ乃こゝ
ゝよあり〳〵あるいふれこれをこゝ作ると
いふをとくいふるやあるいこゝろさずまれこゝろ
し作るれとぐひなゝうひれぐつゝるぐ
をゝふせんやゝるゝひとり死ゝるものゆゝ二
人をこゝろさんやゝるゝとゝてぐおひまづひてぐ
約まりこゝをつゝゝあぐれぐまこゝ

乃兄弟のゝの母こゝいふ日ごゝろこゝゝものゝ
あゝをゝ〳〵ゝゝぐれぐ母をめゝくゝとのゝふ
ゝゝゝゝくをゝびくゝあんぢぐもゝ人を
こゝろせりしまおふをゝゝぐひまゝ死ゝゝゝん
おゝひあゝうひつぐめゝぐひぬゝんぢゝ
まれるをいゝゝぐれのゝをこゝろゝんとなゝゝ
ゝひれぐ母ゝくゝあのおさをゝくを
こゝ作ゝんとこゝゝゝゝゝのくちゃゝて
これおさゝあきぐゝ人乃ぐすぐきよゝて
あゝゝこれをこゝろゝんとゝゝゝこゝろゝいゝ

うやとひくれば海こえくいつやうのあのかき
あきハ月ごうめるるよんなとうきハ是腹乃ふく。
ゐるゝが文月ごうひくぐハ乃ちぢめまをこの
ゐまをまれるあづるくどやーうんとや
をきうれぐまれうあひきゆりきぐ人乃ゆいごんを
うけくハうしうこうをとろうまゆるん。
ゐうんあをこうとくをハうさぐれるゐ
くうををうくおるやけれ義をすゐ
ゐうゆいごんまうもきゆるハぐるる人をあぐ
むくゐうれ人乃やくうをくぐゆりてを

いうぐうを世ハくうゐりゆるんぐうゐうめるまハうぐほ
くれどもくをこうひをゐうひゆるじやハとうひあ
ぐ世ばうるくをぐるきうてぐんまうまこうゐうト
あぐぐ世ばまこうゐ義を感じのひて兄弟の妹
ををもうすけのひうみうを義母と名づけ
ゐうとうや
ゐまるゐまうくよめをうとめとうぐくゐきゐれ
ゐうくごとまむくうゐりゆるにうるこれ女乃
男れうくあうくぐを幸性ひぐくをうのうるものゐる
ゆくううぐくをくゐうをくゆくと

うゑ侍りむしろ
ちをんなをみさやうの
又ぞくうしきぐ
ちるるはれるを晉
又云乃むとめ趙姫とせ
はまうらうぐうるをうゑ侍ど趙裏
のうちのはまのうり有といふものあり
趙姫とりて
とくくひきぐせるりれば
有こめぐうを忘れぐくなりひく趙姫の股
の中よりうれるる扇掐といふものをすめて
晉乃成云ふ族太史とうゑ

こひのぐうをれそもうり一乃るをを
ちくはゆり云族太史と扇掐はうれりうり怪
法陽報ちくく人乃ぐめりりよきるわれぐ
さりうりるのきる事ある世のうひるとあ
れううり
なりうれと人をはいぐちるとある
ちの男乃うりうるちくるし
とぐよく侍ぐよめちうとめれ中を心ある人は
うるうくこそ侍れ唐史人乃ちとれ
ちうぐまりうく掐うるのぐるおさくうるを

ねたのまつ　ゆかりしをのぐく詩をはく

まつくいそく

燕こ千鳥　差池を羽　之子于海　望之于野

（はせめくこゝにとびて　うちふるす　こゝにつらなり　ながくのこゝをうる　せんだうすゝまをよぶす　うくゝゝのうぐうぐ）

謄望　泛泛如雲

あどいひくあくあくあどめのくりゝ山はそめこゝに

とひくこもきねをあくめるといはるぐい奥は詩

とひてぷくまくゝゝのるい序哥すどふ

やゝは心みくぷきれの事をいくりぷこれをこ

よくれりとふよりは山よりはくるをきてひきて

ふがめやれば彩をくゝをぷ姿きを心をいくるまり

さうとめしてくしこうつくしくよめをいるもりまつる
事を感しまく時乃君をこれていくさうを八嶽姫と
ふ川名をくおめあつりくさうとわとちう
伊ぶくやさくまつくいつまつくこうう
小野乃さの神乃法名を慶西と号ていわう
くかりまりくさうとき学問乃法名をくおりまする
う門裏ふくく乃及身とくこち智恵乃いろいる
らぬをとめすす事いるふちざね公及身志ふ
とき法母きさいれとまつるうう
ひさうこの月のうくとなるぶう

いくのうぜをもつてせてるる
月のうくをかうくとハ及身をさすもりまつる人ハふう
られうぶをくさまうるゆくしぶくのうぜとハ代さこう家う
はまくくうるうをてこ公ちざね公のちぎくを
疑吾といひくるごち先祖より学問乃家てい
さうれぶいまはうちざね公さふ京宮殿ぶ人乃
及身をさうさうのうふ京宮殿ぶ人乃ちくおりま
せうくのうれ心ぶうるうの母ぶでいとい
うくゆとぶうりおりひくかくもんをもさせてぶう
らうるいうびまぶ法をせさせくいうくくさハ

めうし乃うへ乃るをいおうづりてやうやうとして
なづきをあきわぎうり侍るづうつやうやうと家れ
ぐうんをなうりおのへうとおりとれり母の心ぶとなう
わぎうやむぐちきうきすくだうるをううぐ
てあり侍る事ぷ父乃わぎうりうる事ちぐぷ父こう母
乃心ぐへうりうる事おわうりぐじぷう孟子とひ
る大賢乃母ぎうきまち家をみるうるようなうれ
ぐぷ孟子いとみけあうひしりぐのうれうよぷひにをう
乃いとううをひうぷへをうづうぐうをうてまう
をうるうしぶうれ母をれをうるうおうが子れをうぐき

ところなうすうて家れ乃をくへまうるぷ市乃うう
きうをうれぶ孟子やういなきべ乃ちねをうをて
れうり三ぷうり母又ぶうれをうんおちうずとひ
て学宮乃りうる家をううくすきうれに
孟子又ちを学ちう乃ぶぐを又ちうひくなうひ
ぐりれうも礼をちう俎豆とうく礼うちゆる
乃うをうへうぐちうひうり母これをうぐうこて
こうハまううわぐうれあうぐきぶうれうとく家居
をうぐめうひうれば孟子成人ちうふまに孤り
大儒乃名をうげうひ才ぷやうり母乃心うちひ

うちうちにてこそ人乃母とこそ子をそだてる乃らちはとこそ
わきうちに関乃文王とゝす大聖人乃治母太任
とゝ有る。王書とゝす人乃書とゝ有りけるに
まをたくさんのひかりすでにまつるゝ山
に関るあしきををずにこれるこ
とをきゝず口ずをこれることをいまをずして
月ごろみつしらをとゝまりて始り
文王をうまれひとり治る聖人の
山ぐちにとゝまりおりて治母太任にとゝまりて

ろかくぞくにちひさいしるしをあらはすよろ
ずよれのちまぐも國を治め天下をさいてうまする
うちのぐらとゝいふ人ありてこれをいとなむやあひ
とてうかとゝしくうりて世よりとゝまりはさか
きすのうちあうりて人をいひ者れ母のまぐり
ゐをとゝのみてわかをいてきまりあふく人
乃子孫ちうくに藝術をつくりとゝ中
にうるををつぐんやをもあくゝ作ばゝ母とゝりて
うちくやうくをもちあんさればうくよきを人の
ゐをうとゝまるこりよりをとゝるをひとくいろう

ちかづくやうやうひさしくなりぬれば後松尾
の禅尼の家明寺殿をとりまゐらせ時頃をもてなしまゐらせ
けるに八やれる布袋に俊頼朝臣の歌
あるをみてとりあへず
きよくあるこころにはにごりすくなし
さりなくあるこころにはにごりすくなし
こゑひとつにはれをわが身をよくてしらさめて
ちくるをちきるをくるつて之道乃名をもわけ
ねとあり侍るべきことにこそ家に風吹つゝ世く盤昌の
こゝろ

世仁天皇に治ときこえ題太神を治むとあり倭姫命
よりつたへしめたまふ倭姫命ハ世に玉ふなり
これぞ太神をこゝてのまいり給ふ神風乃世に玉ふなり
よに波乃ぶきまさるよりする玉ぶるこゝろみうち
ほうりぬんとなり神託せるせうれハ
うこゝる意ばかりこれ内宮をしめくくて
倭姫命治心神明りうるひるうれハ七百餘年の
歌をしるしたまふ
神くぞやいとぐ乃川のいるのゝやとるる
乃波をもとぐのゝ

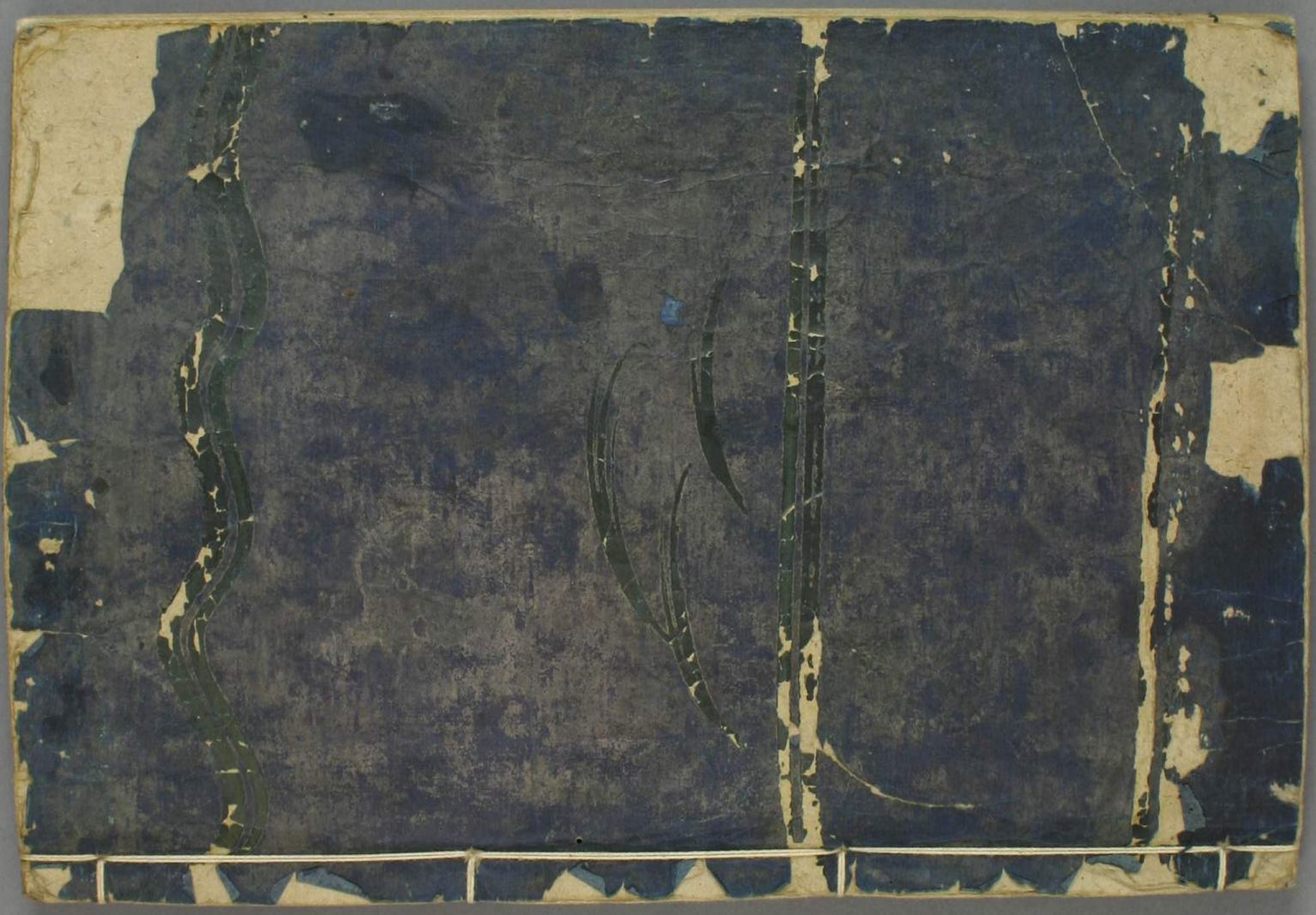
置ふくろ時あるかぎりとめどなくあつまりきて
とまるいと乃ちあやきすまるとあんすると
そうすくく女のあまりに乃ひさいなぐ教
さぶくさきのくいひをきつるさめをきつる
くれど汚をゞりおもひちぐみを指深
ちゐくくちてぬぎまぎふをなしじう
いと安ものさまごとり乃ゐどりくちねり
おやの乃いさめくくひいるあうびりてうどぶ
をゞてうる汚しをのくくをあうひぢひさき
くくあるまどみうちあくゞれをまぶより

りみ車ふくろのふいまあぐちをみよくう
ちふさぐまわてゆうちたわやきくくちあきく世
乃ことわぎみひまぐくまも人乃世よあ江をぐ
うくくをせうふやくくこをぐろくちどるはぢ
く心をゆうずあるはゆく月うむひて
を乃ともひをうぶはくてをかきうつぶく
くろもるうちくくをあるすくひを指ぬよ山ろ
ある人乃をくちかあ出うあるをるつと
ふ筆紙を源氏さぐろをちくやうに名うき
ぬくいきくねどうるき女乃うくく汚ちくぬ

こと乃ゑをまかきはらねつゝひとくまるれとも
乃めはるゝいつゝまをゝれきこしはる。
いつれ乃はとゝきふくゝる人乃つゝりまるとゝふこ
ゝもたゝ乃はゝねどゝてきこゝゝ乃おゝれは
めづらにおゝしくれ乃ゝうゝとめんせ
ゝ乃はゝゝゝきゝ事おゝたきまゝたくかきゝう
れゝゝゝてうゝちゝゝ乃おゝゝのゝゝゝ演
乃ゝきゝゝよゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

をゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

きくさへくるゝ中乃ひとこと申くを忘れん人
の同とまるゝ事なくぶさしはくるまひし
ゝとの人乃だうふを始やうを給りねらぶ
かく地ひさうあきうみるつゝすうろ
めゆくんとよ

文政さるるだろころぐぢれうりあぐゝへ
てすぐろうかきちしけ

書林 大坂 秋田屋安兵衛求
坂田屋平兵衛版